

伊良部トーガニまつり実行委員会

交流
部門

想い(うむい)のかけ橋「伊良部トーガニ」を唄うふるさとづくり (平成26年度認定)



伊良部トーガニは即興的な叙情歌で、推定500～600年前に伊良部島の歌の名手トーガニ(唐金)が歌ったものとされ、後世の歌い手が編曲した。「伊良部島との間に、離れ島との間に渡る瀬が、休む瀬があれば良いのに。小さな船で通っておいで下さい」と哀調を込めて歌う。宮古島市・伊良部島では、この歌を地域を象徴する歴史文化資源と捉え、平成3年度に第1回の「伊良部トーガニ大会」を開催した。一度中断したものの、文化の保存継承のため実行委員会を立ち上げて平成12年度より継続的に開催しており、平成26年度で14回目を迎えた。宮古圏域に限らず、沖縄本島や他の都道府県、海外からも参加があり、宮古を代表するイベントの一つとなっている。

「伊良部トーガニ」の本歌は「島タウガニ」という歌で「伊良部トーガニ」の原型とも言えるが、歌い手が自由に歌詞をつけるため、10人いれば10の「島タウガニ」がある。まつりではこの「島タウガニ」部門を設けて子どもからお年寄りまで、それぞれの想いを込めて披露している。なかでも、84才の森田秋さんの「島タウガニ」は「今年も元気で正月を迎え祝うことができる喜び」「子どもは何にも勝る宝」など、聴く人に感動を与えることから、実行委員会ではCD化し、子どもたちに聴かせ、島の伝統文化の継承につなげようと考えている。

伊良部島は農漁業が盛んな地域で、近年はJAおきなわ伊良部支店、伊良部漁業協同組合が受入窓口となり、修学旅行生の農漁業体験も始めている。平成27年1月には宮古郡民待望の伊良部架橋が開通する。美しい自然と農漁村環境に恵まれている伊良部島において、まつりを目玉に更なる交流と島の活性化が図られると期待されることから、「沖縄、ふるさと百選」交流部門に認定された。



若い世代も難曲に挑む



保育園児による合唱



島タウガニを披露した参加者



日本の渚百選 佐和田の浜



まつりを楽しむ人々



伊良部大橋